

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。

① 授業公開、校外での授業参観などを通して、授業力の向上、授業研究体制を構築する。

- ・ 授業見学のしくみはできたので、今後は、同教科だけでなく他教科の授業見学や見学後の意見交換など、より効果的な運営方法を工夫する。
- ・ 校外での授業見学や予備校での講習の機会も設けた。次年度は実力考査の作問体制の構築や生徒の学習習慣の定着を図る。
- ・ 図書館利用授業の研修会を実施した。今後は図書館利用授業の成果を検証していく。

② 授業アンケートの活用の工夫を図る。

- ・ 同じクラス、科目で授業アンケートを2回実施し、1回目と2回目のアンケート結果の比較、各教科内の平均値と比較した個人データをグラフ化して全教員に個別配布した。今後はアンケート項目の見直しなど授業改善にさらに役立つ取り組みをする。

2 キャリア教育の視点に立った教育活動の工夫。

③ 総合的な学習の時間や進路学習等を通して、効果的な指導が行われるようにする。

- ・ 総合的な学習の時間で志望系統別研究を行い、発表会を実施できたことは有意義であった。今後は総合的な学習の時間の内容を検証しながら、キャリア教育の視点を教育活動全般にわたって実践する。

④ あいさつ運動の広がりや美化意識の高揚を通して生きる力を育成する。

- ・ 生徒会執行部による朝のあいさつ運動を各種委員会と連携して全校へ拡大するのができず、方法が課題である。
- ・ 教室の美化については美化委員を中心に進めているが、クラス全体への美化意識の高揚までには至っていない。

3 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。

⑤ 生徒が主体となって企画運営させる体制作りをする。

- ・ 生徒会執行部を中心とした自主的な活動が学校行事で展開できるようになってきた。今後は、そのしくみを委員会活動やその他の組織に広げ、委員会活動等の活性化を図る。

5 情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。

⑥ 進路指導、生徒指導などについて教員間の情報交換及び共通理解を図る。

- ・ 進路指導では、定期的な進路課会議や進路通信などを通じて教員間の情報・指導方針の共有化がなされた。生徒指導や生徒把握では、年次団会議で情報を共有することはできたが、年次を超えての共有が図れなかった。次年度は情報の共有から、課題意識の共有、課題解決のための議論へと組織的な取り組みを進める。
- ・ 部の顧問会議の回数が少なく連携が不十分であり、実施方法が来年度の課題である。

2 学校関係者評価委員名

| | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 小野和博 (同窓会関係者) | 西 佳子 (PTA 関係者) | 藤田和弘 (吉備国際大学長) |
| 八木橋康広 (PTA 関係者) | 豊田正美 (高梁中学校長) | |

3 学校関係者評価

本校が評価目標を掲げ、努力してきた成果がアンケート結果などから伺える。指導力・授業力の向上については、各教科、課、年次団等で組織的に取り組むことが大切であり、その体制づくりに向けてのさまざまな工夫が見える。今後は生徒の学習習慣の定着に向けても一層努力していただきたい。また、生徒が人間力を高め、充実した3年間を送るためには、生徒が自主性を発揮できる場面作りが必要である。学校行事、各種委員会等の一層の充実に期待するとともに、次年度は重点目標として何に取り組むかを絞り込み、メリハリをつけていくことが必要であろう。

4 来年度の重点取り組み (学校評価を踏まえた今後の方向性)

生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上、生徒の学習習慣の定着、委員会活動の活性化など、今年度の評価の課題を重点的に、各課等で連携を密にしながら組織的に取り組む方策を構築する。